2019 11.25 vol.905

JA全農ウィークリー WEEKLY

6面

JA全農 2019ITTFチームワールドカップ東京大会開催
全農グループ一体で大会盛り上げ（広報・調査部）

2面

北海道苫小牧市に新倉庫竣工（全農物流㈱）

新設された全農物流㈱の苫小牧倉庫（2面）

多くの来場者の関心を集めた農泊先進地域のプレゼンテーション（3面）

全農グループが一体となって盛り上げたJA全農2019ITTFチームワールドカップ東京大会（6面）

2 営農管理システム「Z－GIS」が機能強化（耕種総合対策部）

担い手アグリサミットで無人トラクターなど新技術発信（広島県本部）

3 農泊シンポジウムでイタリアの事例紹介（くらし支援事業部）

ツーリズムEXPOに初めて出展（くらし支援事業部）

第39回全国きき酒選手権大会に協賛（米穀部）

4 「東北復興大祭典」で東北の特産品などPR（耕種総合対策部）

全農酪農セミナー2019開催（畜産生産部）

目指せ！土壌医！来年2月に土壌医検定試験（耕種資材部）

5 JAグループ各組織が支援するスタートアップ企業7社が成果発表（経営企画部）

7 JAズームイン（埼玉：JAちちぶ）

8 山形県産米「雪若丸」の焼酎発売（山形県本部）

「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」プレゼント（広報・調査部）

JAタウンショップ紹介
全農とっとりアグリマーケット（JA全農とっとり）

Web版JA全農ウィークリーはこちらから ▶▶▶▶▶▶▶
https://www.zennoh-weekly.jp/

Web限定

農泊PR動画をYouTubeに公開（くらし支援事業部）

「いま、『協同』が創る2019全国集会 in kanagawa」開催（経営企画部）

山崎理事長がラジオ日本に出演（広報・調査部）

News!

北海道苫小牧市に新倉庫が竣工

道産農産物の安定的な輸送と効率化目指す

全農物流㈱

全農物流㈱は10月29日、北海道苫小牧市に建設していた新倉庫の竣工式を行いました。

新倉庫は敷地面積1万3200平方㍍、鉄骨造りの平屋建て3240平方㍍、最大収容能力約7000㌧で、米や甜菜糖など道産農産物・加工品を保管します。道内港湾の貨物取扱量の半分以上を占める苫小牧港やJR貨物駅に近接しており、人手不足など物流手段の確保が厳しくなる中、安定的な輸送と効率化を目指します。

新設された全農物流㈱の苫小牧倉庫

News!

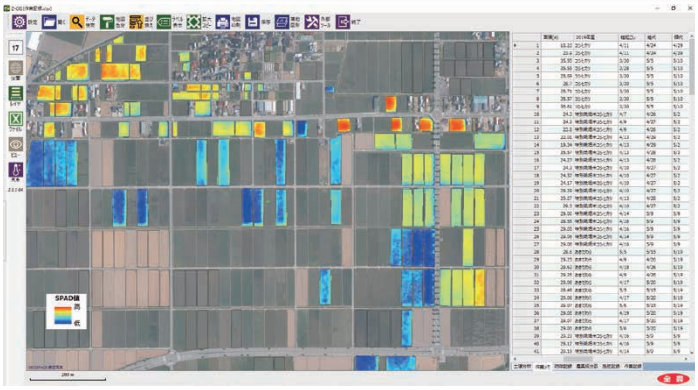
営農管理システム「Z－GIS」が機能強化

人工衛星リモートセンシングサービスと連携

耕種総合対策部

全農が提供する営農管理システム「Z－GIS」は、来年4月から(予定)、国際航業株式会社が提供する営農支援サービス「天晴れ」と連携を始めます。

「天晴れ」は人工衛星リモートセンシングにより、水稲、小麦、大豆などの葉色、穂水分および収穫物のタンパク含量を推測し、生育状況の診断ができます。連携後はZ－GIS上で診断結果を確認できるようになり、圃場管理の効率化、高度化が図られます。



Z－GISでリモートセンシング診断結果と営農情報を併せて表示できる

News!

無人トラクターなど新技術を発信

担い手アグリサミットを開催

広島県本部

広島県本部は10月30、31日、東広島市のJA西日本営農技術センターで「JAグループ 担い手アグリサミット」を開きました。

今年度で4回目の開催となり、今回から県内だけではなく中四国地方から担い手生産者が参集し、2日間で864人が訪れました。自動飛行ドローンや無人トラクター、ホウレンソウの機械化一貫体系の実演会を実施した他、パラソイラや収穫機、低コストハウスを紹介しました。

注目を集めた無人トラクターの実演会

News!

集落を１つのホテルに見立ておもてなし

農泊シンポジウムでイタリアの事例紹介

くらし支援事業部

全農が賛助会員として参画する日本ファームステイ協会は10月28日、東京都内で「日伊国際農泊シンポジウム」を開きました。

イタリアでは、食事や宿泊などの場所を分散させ、集落を一つのホテルに見立て、客をもてなすアルベルゴ・ディフーゾ（Ａｄｉ、分散型ホテル）が行われています。

シンポジウムでは、イタリアＡｄｉ協会のジャンカルロ・ダッラーラ会長が講演したほか、Ａｄｉの日本における応用可能性についてのパネルディスカッションなどが行われました。

農泊の推進について共同宣言を採択した左からダッラーラ会長、日本ファームステイ協会の皆川芳嗣副会長、上山康博代表理事

News!

映像やパネルなどで「農泊」をＰＲ

ツーリズムＥＸＰＯに初めて出展

くらし支援事業部

全農は10月24～27日、大阪市で開かれた「ツーリズムＥＸＰＯジャパン２０１９」に㈱農協観光・日本ファームステイ協会などと共同で「農泊」ブースを出展しました。

映像やパネルで農泊を紹介した他、農泊先進地域の方によるプレゼンテーションも実施。約３０００人が立ち寄りました。来場者アンケートでは、農泊の言葉と意味を知っていた方は約４割だったものの、ブースの情報に接して、農泊してみたいという方は９割近くに上りました。

多くの来場者の関心を集めた農泊先進地域のプレゼンテーション

News!

第３９回全国きき酒選手権大会に協賛

きき酒日本一の座を目指して真剣勝負

米穀部

第39回全国きき酒選手権大会（日本酒造組合中央会主催、全農協賛）が10月25日、東京都内のホテルで開かれました。

予選突破した各選手が日本酒知識と日ごろ鍛えた感覚で日本一を競い合い、全農は入賞者に全農賞（お米ギフト券）を贈呈しました。

全農は、今後も、高品質な原料米の安定供給によりおいしい日本酒造りに寄与するとともに、日本酒ファンづくりにも積極的に取り組みます。

個人・団体の部の表彰式

News!

「東北復興大祭典」で東北の特産品などPR

全農東北プロジェクトで6県本部が連携

耕種総合対策部

全農東北プロジェクトは東北七新聞社協議会による「とうほく創生Genki プロジェクト」と連携し、10月26、27日、東京都中野区で開かれた「2019東北復興大祭典 なかの」で特産品のPRなどを行いました。

ブースでは、「東北六県絆米」、フルーツや加工品など、東北6県の特産品を販売しました。東北和牛のサイコロステーキは盛況で、1000食を完売しました。

ステージでは、AKB48チーム8と掛け合いを行いながら、各県の紹介や特産品をPRしました。

AKB48チーム8とともにステージでPRを行う全農東北プロジェクトメンバー

News!

全農酪農セミナー2019を開催

最新の牛舎デザインを紹介

畜産生産部

畜産生産部は10月30日に帯広市、31日に札幌市で、全農酪農セミナー2019を開きました。

米国ウィスコンシン大学のコートニー・ハルバック氏を講師に迎え、「快適な牛舎を作るために」をテーマに最新の牛舎デザインを紹介していただきました。酪農関係者の関心の高いテーマで、酪農家、JAやホクレン職員、獣医師など、どちらの会場でも100人を超える参加をいただき、大変盛況でした。

「快適な牛舎を作るために」をテーマに講演するハルバック氏

News!

目指せ！ 土壌医！ 来年2月に土壌医検定試験

全農が公開するWeb講座の活用を

耕種資材部

土壌診断を通じて改善を行う専門家を認定する土壌医検定試験（日本土壌協会主催、全農後援）が来年2月16日、全国各地で行われます。

全農は土壌医検定の活用により、JAグループ職員の農家対応力強化を図っています。その一環としてYouTube上でWeb講座を公開していますので、同協会主催の研修会と併せてご活用ください。

JAグループ職員の皆さんの積極的なチャレンジを期待しています！ 申し込みは11月1日～12月13日です。

Web講座「めざせ土壌医検定3級!!」はこちら ↓

土壌医検定HP（日本土壌協会）
http://www.doiken.or.jp/

ＪＡグループ各組織が支援する「ＪＡアクセラレーター」

スタートアップ企業7社が成果を発表

JAグループ全国８連が共同で設立したイノベーションの拠点「AgVenture（アグベンチャー） Lab（ラボ）」は10月25日、「JAアクセラレーター」プログラムの最終成果発表会（Demo Day）を開きました。　【経営企画部】

本プログラムは、１９２件の応募から選ばれたスタートアップ企業７社をＪＡグループ各組織で支援するものです。６月のスタート以来、４カ月強という短い期間でそれぞれが成果を挙げました。

㈱みらいスクールは子ども向け体験プログラムを提供しています。埼玉県川越市で実施した稲刈り体験によって、ＪＡグループとは継続的に質の高い教育プログラムが構築できると報告しました。

㈱アグロデザインスタジオは創農薬ベンチャーとしてＪＡグループの紹介で国内外の農薬メーカーと折衝でき、今後の開発の方向性を確認できました。

アクプランタ㈱は植物の乾燥や高温への耐性を高めるバイオスティミュラントという新たな資材の認知度向上を図り、農業法人で実証実験を行い、その効果の再現性を確認できました。

Inaho（イナホ）㈱はアスパラ収穫ロボットの完成とレンタルの運用が開始したこと、全国のＪＡとの接点が構築できたことで全国展開の足掛かりができました。

㈱おてつたびは全国３地域で人手不足に悩むＪＡ組合員農家や直売所へのアルバイト学生の派遣を通じて、学生側にも農家側にもニーズがあり、全国拡大が可能と報告しました。

※このほかに、マグロの尾数計測システムの**ACMSコンソーシアム**、共働き夫婦向け家計管理アプリの**㈱OsidOri**

このうちの数社は期間中にファンドなどからの資金調達（出資）を受けたとの報告もありました。

また、ＪＡグループの伴走者からは「スタートアップ企業の圧倒的なスピード感は自分の仕事にも取り入れたい」「失敗を許容し挑戦を繰り返す経営者マインドはＪＡグループにも必要と感じた」などの声がありました。

アクセラレータープログラムとしてはこれで終了となりますが、７社とは今後も連携を継続します。また、次期アクセラレータープログラムの実施に向けて、現在準備中です。

スタートアップ企業とは
革新的な商品・サービスを生み出す可能性のある起業間もない企業。日本ではベンチャー企業という言葉に置き換えられる場合もある。

JA全農 2019ITTFチームワールドカップ東京大会 開催

全農グループ一体となって大会盛り上げ

「JA全農 2019ITTFチームワールドカップ東京大会」が11月6～10日、東京・千駄ヶ谷の東京体育館で開かれました。全農は同大会に特別協賛し、「『ニッポンの食』で心をひとつに、ニッポンエール」をコンセプトに、全農グループ一体となって大会を盛り上げました。期間中、1万9900人が来場しました。【広報・調査部】

長澤会長から銀メダルの女子日本代表チームに山形県産米「雪若丸」を贈呈

銀メダルを獲得した日本代表女子には全農の長澤豊会長から山形県産米「雪若丸」500キロを贈呈しました。

金メダルの男女中国代表チームには国産米を1トン。銀メダルの韓国代表男子には、全農グループ直営の焼肉レストラン「びゅあ」の食事券を贈呈しました（韓国には米の輸出規制あり）。

会場屋外ブース

会場屋外ブースではJA全国女性組織協議会との共同企画「どんぶり47プロジェクト」のどんぶりレシピのうち出場選手のゆかりのある土地の「どんぶり」8種類を販売しました。栄養たっぷりで手軽に食べられるどんぶりは連日、大好評でした。また、全農グループの飲料や農協牛乳を使用した「ミルク豚汁」（乳和食）も販売しました。

9日、10日には屋外ブースで国産米を使用した「焼き餅」500個を無料配布。手軽に栄養補給できる「餅」の魅力をPRしました。

出場選手ゆかりの土地の「どんぶり」を販売した屋外ブース。「どんぶりモニュメント」には応援メッセージが多数寄せられた（手前）

焼きたてのお餅を配る全農職員

屋内ブース

屋内ブースでは47都道府県どんぶり（サンプル）を飾ったフォトスポットを設置。海外からの来場者からも注目を浴びていました。9日からはフォトスポット前で撮影した方に、全農オリジナル商品が当たる抽選会を実施、長い列ができました。

他にも「農協珈琲」「農協ヨーグルト」などのサンプリングも実施し、大勢の人でにぎわいました。

来場者の人気を集めた抽選会

JAズームイン

秩父の伝統野菜、しゃくし菜を加工販売
ウィークエンド農業塾で新規就農者育成

JAちちぶ（埼玉県）

概要	平成31年3月31日現在
正組合員数	8104人
准組合員数	6952人
職員数	185人
販売品取扱高	14億5千万円
購買品取扱高	40億円
貯金残高	1094億2千万円
長期共済保有高	3064億8千万円
主な農産物	キュウリ、しゃくし菜、ナス、シイタケ、コンニャク、インゲンなど

JAちちぶは地域の特性を生かした多彩な農産物を栽培し、市場出荷ではキュウリ、ナス、インゲンなどが高い評価を得ています。自然に恵まれた環境から観光農園も多く、イチゴ、ブドウ、ブルーベリーなど多様な果樹が栽培されています。

加工センターで漬物加工に向けしゃくし菜を洗浄

しゃくし菜をJAの加工センターで漬け込み販売

JAちちぶは数多くの農産物を取り扱っています。中でも秩父地域の代表的な特産物の一つが、しゃくし菜（雪白体菜）です。

しゃくし菜はシャキシャキした食感が特徴で、そのほとんどが歯切れよく風味も増す漬物に加工されています。JAでは契約栽培農家が生産したしゃくし菜を買い取り、JAの加工センターで独自に漬け込み、「ちちぶ菜漬」として販売しています。「ちちぶ菜漬」は地元の物を使うことにこだわり、県の品質基準を満たしている加工食品の「ふるさと認証食品」にも認定されています。

しゃくし菜を漬け込んだ「ちちぶ菜漬」

しゃくし菜の収穫作業

100人超える農業塾生 直売所出荷や契約栽培

しゃくし菜をはじめ、秩父の伝統野菜は各メディアでも注目され、地域の食生活に欠かせないものとなっています。しかし、農家の高齢化や担い手不足などから生産者の減少が心配されます。

JAちちぶでは、定年などで新たに農業に取り組みたい人などを対象に「ウィークエンド農業塾」を開き、農業従事者の増大を目指します。

同塾は1年間、月1回の講習や塾生の圃場（ほじょう）に出向き、管理状況の確認や対策についてサポートします。今年度で4年目を迎え、塾生は100人を超えます。現在は14人が直売所への出荷や契約栽培を始め、そのうちの3人がしゃくし菜を生産。土づくりから適正な肥料、農薬の使用方法などを学び、良質なしゃくし菜を栽培しています。

JAちちぶは、地域の特性を生かした「秩父ブランド」の確立と、将来の農業の持続的発展に向けて、担い手の育成に積極的に取り組み、生産者の所得向上を目指しています。

真剣に講習を受ける農業塾の塾生

あぐりずむ WEEKEND
JA全農提供FM番組（TOKYO FM／JFN38局）
毎週土曜日9:30～9:50（放送曜日・時間はFM局で異なります）
生産者の熱い思いをお届け!

山形県産米「雪若丸」の焼酎を発売

県内のJA直売所などで2600本限定販売

山形県本部の関連会社㈱全農ライフサポート山形は10月25日、山形県産米「雪若丸」を100%使用した「純米焼酎 雪若丸」を発売しました。【山形県本部】

米のうまみと香りを最大限に引き出し、飲みやすさにこだわりました。和食にピッタリの味わいで、特にロックがお勧めです。

同社が販売する県産米の純米焼酎は、「つや姫」100%使用の「姫の夢」に続き2例目。山形県内のJA直売所などで、2600本の限定販売です。

◀山形県産米「雪若丸」を100%使用した「純米焼酎 雪若丸」

毎週土曜日13時～ TOKYO FM系列38局ネット

全農 ZEN-NOH COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

今回のプレゼントは、新潟県産の西洋梨「ル レクチエ」(3kg)を3名様に。芳醇な香りと上品な甘さ、なめらかでとろけるような肉質が特徴です。

また、JAタウンギフトカード4,500円分を1名様にプレゼントします。

【広報・調査部】

応募は番組ホームページで受付中です。

応募締め切りは11月30日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。

「ル レクチエ」はJAタウンからご購入いただけます。

JAタウン https://www.ja-town.com/shop/c/c3901/
（ショップ名:ハロー!!JA全農にいがた）

JAタウン ショップ紹介

JAタウン | 検索 クリック

全農とっとりアグリマーケット（JA全農とっとり）

鳥取県は二十世紀梨をはじめ、いろいろな梨の育成・生産が行われています。

11月から12月頃に出荷される代表品種に「王秋梨（おうしゅうなし）」があります。

「王秋梨」は農研機構果樹研究所で「慈梨（ツーリー）」という中国梨と二十世紀梨との交配種を元に更に「新雪」と交配させて生まれた品種で、2000年10月に品種登録された赤梨です。

特徴は、今までの晩生梨と違い特有の香気があり、果肉が緻密で軟らかく、その上シャリ感があります。食味はジューシーでほどよく酸味があり新しい食感で上品な味わいの晩生梨です。

700g程度の大果で、糖度は12～13度と高く、一度ご覧になれば印象深い特徴のある果形をしています。長期保存もでき、お歳暮などの進物に最適です。この機会にぜひご賞味ください。

JA全農のインターネットショッピングモール
▶ご注文は http://www.ja-town.com
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。

発行／全国農業協同組合連合会　2019年（令和元年）11月25日発行（毎週月曜日発行）
第3301号　編集・発行人／広報・調査部　落合成年
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル　TEL03(6271)8055

『JA全農ウィークリー』のツイッターはこちらから

私たち全農グループは、生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋になります。